

# 大阪医科大学学報

第37号 平成10年7月



本館・図書館（文月）

## ◆目

故山中太木先生を偲ぶ会	2
訃報	4
人事 {採用、退職、異動、休職・復職 委嘱・解嘱、海外出張・海外渡航}	4~6
平成9年度主なる事業報告	6
助成金の決定について	6
平成9年度決算について	7~9
永年勤続表彰	10~12

## 次◆

教室紹介	13
医学会春季学術講演会	14
会議・行事予定	14~15
教務事務研修会に参加して	16
医学の散歩道	17
附属病院関係	18~19
保健管理室からのお知らせ	20~21
俳句	23

## 故山中太木先生を偲ぶ会



昨年10月12日に逝去された故山中太木先生（元学長・名誉教授）を偲ぶ会が5月23日（土）午後3時から本学臨床第1講堂において、学校法人大阪医科大学、社団法人大阪医科大学仁泉会、大阪医科大学微生物学教室青藍会の主催で挙行されました。

## 故山中太木先生を偲んで

理事長 田中 忠彌

光陰矢の如しと申しますが、山中太木先生が亡くなられて、はや八ヶ月の月日が過ぎてしまいました。それは、あまりにも突然のことで、今だに信じられぬ思いであります。

先生は本学の二期生として、昭和八年三月に大阪高等医学専門学校を卒業され、副手として細菌学教室に籍を得られて以後、助手、講師、助教授を歴任され、昭和二十五年九月には教授となられ細菌学教室、後の微生物学教室の発展のため、教育、研究、そして後進の指導に努めてこられました。

昭和五十二年六月からは本学第三代学長として、また、理事及び評議員として大学、法人の運営に御努力いただきました。

先生の足跡は、まさに本学七十年の歴史そのものでありました。くしくも、本学七十周年記念式典の一週間後に旅立られましたのは、まさにその節目を天寿とされたように感じられます。

先生の遺訓となりました「医人は国手であり、教育者であり、人生の指導者でもある自覚が生涯教育の源泉である」というお言葉のとおり、我々は医学の最前線にある身であることを基本として、地域社会のため貢献できるよう日々努力してまいり所存であります。

どうか先生、今後も我々を天からお見守り下さい。

ながい間、本当にありがとうございました。

## 山中太木先生の死を悼む

学 長 藤 本 守

去る平成9年10月12日に、本学元学長山中太木先生が心筋梗塞のため亡くなった(享年87歳)。先生は不屈の勉学精神の持ち主として知られ、ご専門の微生物学のみならず、広く医学全般についても一定の見識を持たれ、さらに本学歴史の生き字引き的存在であった。先生の死は本学にとって大きな損失であり、残念至極と言う他はない。

山中先生は明治42(1909)年11月21日に熊本県菊池郡にて山中令太郎、すえ(高本)ご夫妻の間に出生、高塚・菊池・八女地区の漢方医の山中家の相続として育てられた。八女中学三年の時、大阪の桃山中学に転入し、そこから大阪高等医学専門学校に入学され、昭和8年第二期生として卒業された。卒後、里見三男教授の下で細菌学を専攻され、以後約半世紀にわたり、微生物研究者、教育者、為政者として尽力された。

先生は、生来の正義漢であり、教育者として特に精神性を重視、常に「教育の無限性」と「人間性の尊厳」を説かれた。本学で直接講義を聞いた学生数は3,000名以上に及び、現在生存中の卒業生の約半数に達する。また、細菌学、免疫学、感染症領域で、先生の指導で学位を授かった人は約九十名に上る。若い時より文筆能力に長け、「最近の細菌学及び免疫学(1947)」、「微生物学及び免疫血清学(1962)」、「戦袍遺録」、「先人先哲遺影」、「日本細菌学外史」など、著書は九篇を数える。

先生の経歴を拝見すると、昭和13年母校細菌学講師、14年助教授、15年軍属として中国に派遣・日中戦争ではワクチン製造に参画され、そこでは少佐待遇を受けておられた。戦後復員され、昭和21年に母校が大学に昇格した後は大学助教授に就任され、昭和25年に教授、昭和46年より48年まで学生部長、同52年から56年まで学長(第三代目)を務められた。なお、社会的な面では昭和28年には枚方市立衛生研究所所長として、同市の公衆衛生向上に尽力された。なお、

昭和60年には勲三等旭日中授章を受けられている。

細菌学者としての山中先生の学問的貢献では、何と言っても野兎病(大原病)病原体の究明が筆頭である。野兎病はペスト様の病気であるが、戦前・戦中は原因不明とされ、本邦でも中部地方・東北内陸部の多くの農民を苦しめた。戸田正三校長(公衆衛生学者)や里見三男教授(ペスト菌の権威者)の指導もあり、大原八郎博士(東北大学助教授)と共に、仏文学者中島健造氏らも加わった国際的・学際的班研究で、山中先生が野兎病菌を病原体として確定されたのであった。本菌の小ささ、培養困難さが、山中教室での電顕学、ウイルス学の開発に繋がり、後任教授の中井益代名誉教授や佐野浩一教授らの育成につながった。その意味で、先生は今を時めくウイルス学のパイオニアであった。

先生が日本細菌学会長を務められたのは昭和47年であった。当時、栗本珍彦岐阜大学長(微生物学教授)や鈴木祥一郎氏(微生物学助教授、後教授、医学部長)は、それを評して「立派な学会で、山中先生は学者としても人間としても素晴らしい」称賛を惜しまれなかった。また、生気象学会会長の吉村寿人元京都府立医大学長は、山中先生のことを「小柄だが、ファイトの塊」と評された。元細胞生物学会会長の田代裕関西医科大学長は先生を評して「日本電顕研究の先駆者の一人」と位置づけておられる。

医史学会の重鎮としては、大阪大学の藤野恒三郎教授と並ぶ関西の双壁で一時代を画された。木村廉京大教授、緒方富雄東大教授とも親交が厚く、学内外では初代吉津度理事長、足立文太郎校長、古武彌四郎和歌山医大学長、前田多門文部大臣(大阪出身)らとの親交を通じ、山中先生は一期一会を大切にされた「心の人」でもあった。宗教心に厚く、先哲・故人の墓参りを怠らず、畏友「鈴木元造君」(遺稿)他、学問に貢献された人の記録をも丹念に綴られている。

山中先生は、自然植物にご造詣が深く、本学

のキャンパス内に多くの樹木を植樹された。パリから移植したハンテンボク、緒方富雄博士紹介のヒポクラテスの木、ロベルト・コッホゆかりの月桂樹、同級生と手植えのヒマラヤ杉、モッコクなど、今もキャンパスに息づいている。また多くの書物を本学図書館に寄贈された。

山中先生の過ごされた時代は、決して金銭的に裕福な時代ではなかったが、清貧と知恵の根性でもってこれを生き抜かれた。先生が本学に尽くされた功績は誠に大である。

ご家族は、廸子夫人と、元滋、英令の両氏である。なお葬儀は平成9年10月15日高槻市典礼会館にて、また「偲ぶ会」は平成10年5月23日本学講堂にて行われた。

### 訃 報

本法人顧問、前監事の大槻龍馬先生が5月20日(水)急性心筋梗塞のため逝去されました。ここに、謹んで御冥福をお祈り申し上げます。

### 人 事

#### 〔採用〕

助 手	清木 康雄 (産婦人科学)	5.16
〃	星賀 正明 (内科学 I)	6. 1
〃	瀬川 直樹 (泌尿器科学)	〃
〃	平松 昌子 (一般・消化器外科学)	6.16
嘱 託	二渡 栄次 (総務部庶務課)	〃
助 手	松本太一三 (内科学 II)	7. 1
〃	酒井 亮一 (眼 科 学)	〃
〃	小森 剛 (放射線医学)	〃
〃	鶴長 建充 (産婦人科学)	〃
〃	岡本 健 (I C U)	〃

#### 〔退職〕

助 教 授	磯崎 博司 (一般・消化器外科学)	5.15
技術職員	西尾みなえ (輸 血 室)	〃
助 手	熊谷 広治 (産婦人科学)	〃
看護職員	久積 りえ (病院看護部)	5.19
助 手	小橋 昭雄 (病理学 II)	5.31

助 手	田本 重美 (内科学 I)	5.31
事務員	永田ちあき (病院事務部 医事第二課)	〃
栄養主任	吉本 聡子 (病院事務部 栄養給食課)	〃
看護職員	時本 幸世 (病院看護部)	6. 4
事務職員	井垣 和美 (病院看護部)	6.20
助 教 授	宋 景富 (薬 理 学)	6.30
講 師	足立 至 (放射線医学)	〃
助 手	野村 俊之 (内科学 II)	〃
助 手	岡崎 審 (産婦人科学)	〃
〃	衣笠 誠二 (I C U)	〃
主 任	高橋美知代 (附属図書館)	〃
事務員	宮先 千草 (総務部庶務課)	〃
〃	村井真由美 (病院事務部 医事第一課)	〃
技術員	山脇理津子 (病院事務部 栄養給食課)	〃
〃	遠藤 啓子 (輸 血 室)	〃
嘱 託	宮内 高義 (総務部庶務課)	〃
看護婦	有馬 覚恵 (病院看護部)	〃
〃	末永 幸子 ( 〃 )	〃
〃	新出 悦子 ( 〃 )	〃
〃	早瀬 麻子 ( 〃 )	〃
〃	恩田 敬子 ( 〃 )	〃
〃	三宅亜矢子 ( 〃 )	〃
用 務 員	山崎須磨子 (病院事務部 栄養給食課)	7.10

#### 〔異動〕

医 化 学	水口 博之 (生化学領域)	6.16
助 手	助 手	
生化学領域	水野 剛夫 (医 化 学)	〃
助 手	助 手	
病院看護部	川上 将弘 (病院事務部用度課)	7. 1
看護助手	看護 助 手	
病院事務部	岡田 直起 (病院看護部)	〃
用度課	看護 助 手	
事務員		

#### 〔休職・復職〕

##### (休 職)

助 手	宇都宮啓太 (放射線医学)	5.16
〃	岩本 勇作 (泌尿器科学)	6. 9

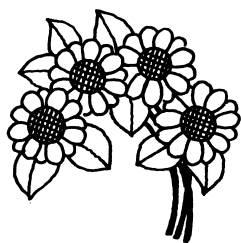
#### 〔委嘱・解嘱〕

##### (委 嘱)

学内講師		
助 手	林 哲也 (内科学 III)	5.16

<b>内科診療体制検討委員会委員</b>			助 教 授 北浦 泰 (内科学Ⅲ)	6. 9
教 授 森 浩志 (病理学Ⅱ)	5.18	〃	診療助教授 石原 正 (内科学Ⅰ)	〃
診療助教授 石原 正 (内科学Ⅰ)	〃	〃	講 師 宮本 学 (生理学Ⅰ)	〃
〃 平田 一郎 (内科学Ⅱ)	〃	〃	〃 織田 行雄 (衛生学・公衆衛生学)	〃
講 師 杉野 正一 (内科学Ⅰ)	〃	〃	学内講師 豊田 昌夫 (一般・消化器外科学)	〃
〃 島本 史夫 (内科学Ⅱ)	〃	〃		
〃 田中 孝生 (内科学Ⅲ)	〃	〃		
〃 出口 寛文 ( 〃 )	〃	〃		
<b>同上委員長</b>				
教 授 河村慧四郎 (内科学Ⅲ)	5.18			
<b>新入生学外合宿企画実行委員会委員</b>				
教 授 千原精志郎 (心 理 学)	6.10			
〃 勝 健一 (内科学Ⅱ)	〃			
〃 玉井 浩 (小児科学)	〃			
〃 竹中 洋 (耳鼻咽喉科学)	〃			
助 教 授 渡邊 丈眞 (衛生学・公衆衛生学)	〃			
〃 北浦 泰 (内科学Ⅲ)	〃			
診療助教授 石原 正 (内科学Ⅰ)	〃			
講 師 中川 一成 (独 語)	〃			
〃 森 禎章 (生理学Ⅱ)	〃			
学内講師 豊田 昌夫 (一般・消化器外科学)	〃			
<b>自己点検・評価組織委員会小委員会 (附属病院部会) 委員</b>				
部長代理 橋口 直栄 (病院事務部)	6. 1			
助 手 村尾 仁 (中央検査部)	6.16			
課長代理 吉間 正男 (病院事務部 管 理 課)	〃			
<b>自己点検・評価組織委員会委員</b>				
助 教 授 西村保一郎 (数 学)	6.24			
<b>保健管理室長</b>				
教 授 千原精志郎 (心 理 学)	6.24			
<b>(解 嘱)</b>				
<b>自己点検・評価組織委員会小委員会 (附属病院部会) 委員</b>				
部 長 平野 勝 (病院事務部)	5.31			
<b>新入生学外合宿企画実行委員会委員長</b>				
教 授 鏡山 博行 (医 化 学)	6. 9			
<b>同上副委員長</b>				
教 授 河野 公一 (衛生学・公衆衛生学)	6. 9			
<b>同上委員</b>				
教 授 勝 健一 (内科学Ⅱ)	6. 9			
〃 竹中 洋 (耳鼻咽喉科学)	〃			
助 教 授 東 克 (生 物 学)	〃			
			助 教 授 北浦 泰 (内科学Ⅲ)	6. 9
			診療助教授 石原 正 (内科学Ⅰ)	〃
			講 師 宮本 学 (生理学Ⅰ)	〃
			〃 織田 行雄 (衛生学・公衆衛生学)	〃
			学内講師 豊田 昌夫 (一般・消化器外科学)	〃
<b>〔海外出張・海外渡航〕</b>				
<b>海外渡航</b>				
			高松 順太 (内科学Ⅰ助教授)	
			スペイン (セビーヤ)	5. 9 ~ 5.17
			稲森 耕平 (麻醉科学診療助教授)	
			赤松 正文 ( 〃 講 師)	
			大中 仁彦 ( 〃 助 手)	
			台湾 (台北)	5.10 ~ 5.15
			瀧内比呂也 (内科学Ⅱ助手)	
			アメリカ (ロサンゼルス)	5.15 ~ 5.21
			竹田 喜信 (内科学Ⅱ助教授)	
			アメリカ (ニューオーリンズ)	5.16 ~ 5.22
			齊藤 治 (内科学Ⅱ講師)	
			アメリカ (ニューオーリンズ他)	5.16 ~ 5.24
			梅垣 英次 (内科学Ⅱ助手)	
			アメリカ (ニューオーリンズ)	5.17 ~ 5.25
			上田 晃一 (形成外科学講師)	
			韓国 (慶州)	5.19 ~ 5.24
			阿部 宗昭 (整形外科学教授)	
			カナダ (バンクーバー)	5.24 ~ 6. 1
			勝岡 洋治 (泌尿器科学教授)	
			アメリカ (サンディエゴ)	5.29 ~ 6. 6
			森田 眞照 (一般・消化器外科学講師)	
			イタリア (ローマ)	5.31 ~ 6. 8
			中西 豊文 (病態検査学講師)	
			アメリカ (オーランド他)	5.31 ~ 6. 6
			奥田 準二 (一般・消化器外科学助手)	
			イタリア (ローマ)	6. 2 ~ 6. 8
			宮崎 瑞夫 (薬理学教授)	
			オランダ (アムステルダム)	6. 3 ~ 6.14
			植林 勇 (放射線医学教授)	
			カナダ (トロント)	6. 5 ~ 6.12
			田淵耕次郎 (放射線医学助手)	
			カナダ (トロント)	6. 5 ~ 6.13
			今井 雄介 (生理学Ⅰ教授)	
			中国 (北京)	6. 8 ~ 6.14

東 郁郎 (眼科学教授)	
イギリス (エジンバラ他)	6.14 ~ 6.28
奥 英弘 (眼科学学内講師)	
オランダ (アムステルダム)	6.18 ~ 6.27
中島 正之 (眼科学診療助教授)	
杉山 哲也 ( 〃 助手)	
オランダ (アムステルダム)	6.19 ~ 6.29
岡部 眞 (内科学Ⅲ助手)	
寺崎 文生 ( 〃 〃 )	
イタリア (ベスカラ)	6.22 ~ 6.30
後藤 俊之 (微生物学講師)	
スイス (ジュネーブ他)	6.28 ~ 7.13
鏡山 博行 (医化学教授)	
ドイツ (ゴスラー)	6.29 ~ 7. 8
玉井 浩 (小児科学教授)	
ドイツ (ゴスラー)	6.29 ~ 6.30
陰山 克 (内科学Ⅱ診療教授)	
長谷川 稔 ( 〃 助手)	
オランダ (アムステルダム)	7. 3 ~ 7.10
(留 学)	
宇都宮啓太 (放射線医学助手)	
カナダ (トロント大学)	10. 5.16 ~ 11. 5.15
岩本 勇作 (泌尿器科学助手)	
アメリカ (ハーバード大学)	10. 6. 9 ~ 12. 6. 8



## 平成9年度主なる事業報告

平成9年度の主なる事業は当初の事業計画に従い、次のとおり実施されました。

(事業内容)

- A) 病院オーダリングシステム
- |                        |    |
|------------------------|----|
| 1. 病院情報システム基幹部         | 1式 |
| 2. ID (診察券) 発行システム     | 1式 |
| 3. 診察券発行機              | 1式 |
| 4. 診察券 (ID カード) 作成     | 1式 |
| 5. 診察券 (ID カード) 配布     | 1式 |
| 6. 仮設電源工事              | 1式 |
| 7. 外来・病棟端末コンセント設置工事    | 1式 |
| 8. 中央検査部検査システム         | 1式 |
| 9. 薬剤支援システム            | 1式 |
| 10. オートラベラー (採血準備システム) | 1式 |
| 11. 帳票裁断機 (栄養給食課)      | 1式 |
| 12. 端末用プリンター台等         | 1式 |
- B) 病院非常放送及び自動火災報知設備整備工事
- C) 研究診療設備拡充計画
- |                                 |    |
|---------------------------------|----|
| 1. 直線加速器高エネルギー X線による全身・集光照射システム | 1式 |
| 2. 組織細胞内生物活性物質イメージングシステム        | 1式 |
| 3. 遺伝子分析・解析システム                 | 1式 |
| 4. ATM マルチメディア提示装置              | 1式 |
| 5. 血液製剤照射装置                     | 1式 |
| 6. 移動式 X線テレビ装置                  | 1式 |
| 7. 教育事務システム                     | 1式 |
| 8. 管理用電算機システム                   | 1式 |
- D) 施設改修計画
- |                        |    |
|------------------------|----|
| 1. 看護専門学校第一看護学科実習室改造工事 | 1式 |
|------------------------|----|

## 助成金の決定について

第12回研究交流助成金 [(財)金原一郎記念医学医療振興財団]

助 成 の 対 象	所 属 ・ 職 ・ 氏 名	助 成 金 額
第21回国際神経精神薬理学会議関連費用	神 経 精 神 医 学 講 師 ・ 松 村 人 志	万円 30

## 平成9年度決算について

### <決算の概要>

平成9年度決算は、本年5月30日開催の理事会において議決され、同日開催の評議員会において報告了承されました。

平成9年度予算では、支出面において研究装置設置のための改修工事、病院非常放送自火報設備改修工事、研究装置の購入、病院オーダリングシステムの整備、附属病院大型機器等整備のための支出増、収入面においては、病床稼働率のアップによる入院収入増を見込みました。

決算におきましては、医療収入において約4億9千万円の減収となり、教育研究経費においても約4億円の経費の減となっております。その他のものについては、ほぼ予算どおりに納めることが出来ました。

なお、医療収入から医療経費を除いた実質医療収入は、前年度と比べて、かなり増加しております。増収および経費節減のための努力の結果といえます。

決算書は『資金収支計算書』『消費収支計算書』及び『貸借対照表』からなっております。学校法人の財政状態が健全か否かにつき、適切な情報を与えてくれる計算書類が消費収支計算書です。今回はこの計算書を軸に説明をします。

### <消費収支決算について> (別表1)

消費収支計算書(別表3)の中の帰属収入から消費支出を差し引いた帰属収支差額が、学校法人の財政が健全か否かを計る目安となります。

平成9年度消費収支予算では、約6千万円の帰属収支の黒字を見込んでおりましたが、決算では、約2億円の赤字となりました。平成8年度決算では、約3億7千万円の赤字でしたのでその幅が多少減じたものの2年連続の赤字となっております。(別表2)

さらに、帰属収入から基本金組入額を差し引いた消費収入と消費支出の差額については、約15億円の支出超過となっております。この支出超過額が余りに大きいと、過剰な設備投資をしているということが出来ます。以下、主な収入と

支出について説明します。

『学生生徒等納付金』は、予算と決算との間にほとんど差異はありません。但し、前年度決算と比べますと、教育充実費で約4億4千万円の減少となっております。優秀な学生を集めるために教育充実費を分納にしたためです。

『補助金』は、予算対比で4千8百万円の減少となっております。経常費補助金の配点(学生生徒納付金の教育研究経費への還元率)が見込みより少なかったことが原因です。前年度決算対比ではほとんど差異はありません。

『医療収入』は、予算対比で4億9千万円の減少、前年度決算対比では約5億円の増となっております。診療報酬の改訂により保険本人の負担額が大きくなったにもかかわらず前年度決算対比で大きく増加したのは、病床の稼働率アップが最大の原因です。

『基本金組入』の主な内容は、直線加速器高エネルギーX線による全身集光照射システムの購入とその関連経費です。

『人件費』は、予算にたいし約1億7千万円の減少となっております。退職給与引当金繰入額が約1億1千万円の減となったことによります。資金の動きを伴う本俸、期末手当、その他の手当は、ほぼ予算どおりとなっております。

『教育研究経費』は、予算対比で4億円の減少となっております。主な原因は、修繕費、委託費、賃借費の減少によります。いずれも経費節減のため外注検査を減らす等の努力の結果です。なお、医療材料費は、医療診療収入の41.77%となっており、前年度決算の42.4%と比べて好転しております。

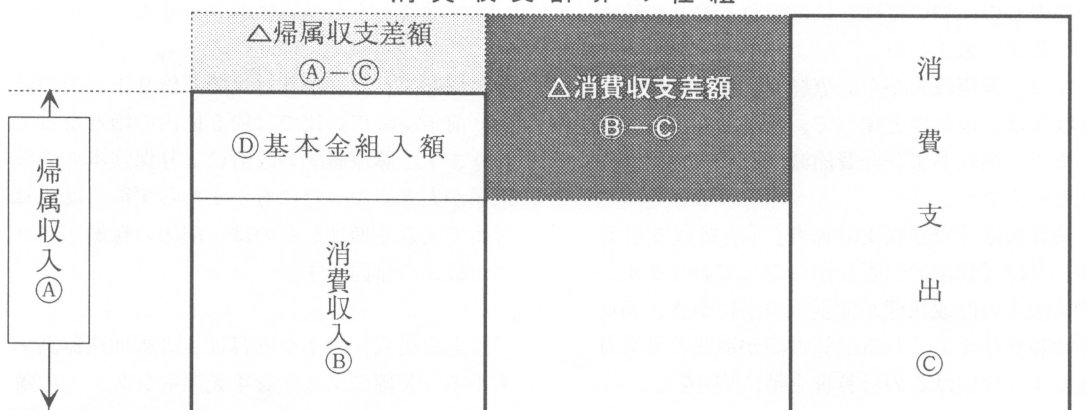
【管理経費】は、予算対比で2億4千万円の増加となっております。主な原因は、健保調整差金の増加によります。医療診療収入の1.5%となっており前年度と全く同率ですが、昨年度は共同指導による返還金が6千2百万円含まれていましたので、本年度はより悪化したといえることができます。

### <今後の課題>

<消費収支決算について>の項で述べましたが、本法人決算は2年連続の赤字となりました。預金金利の低下、薬価差益の減少、消費税の負担等やむをえない財政の悪化原因もありますが、自主努力によって改善できる面も多々あります。今後とも、財政基盤の安定を計るために収入の増加と経費節減に、より一層のご協力をお願いします。  
(財務部)

別表1

### 消費収支計算の仕組

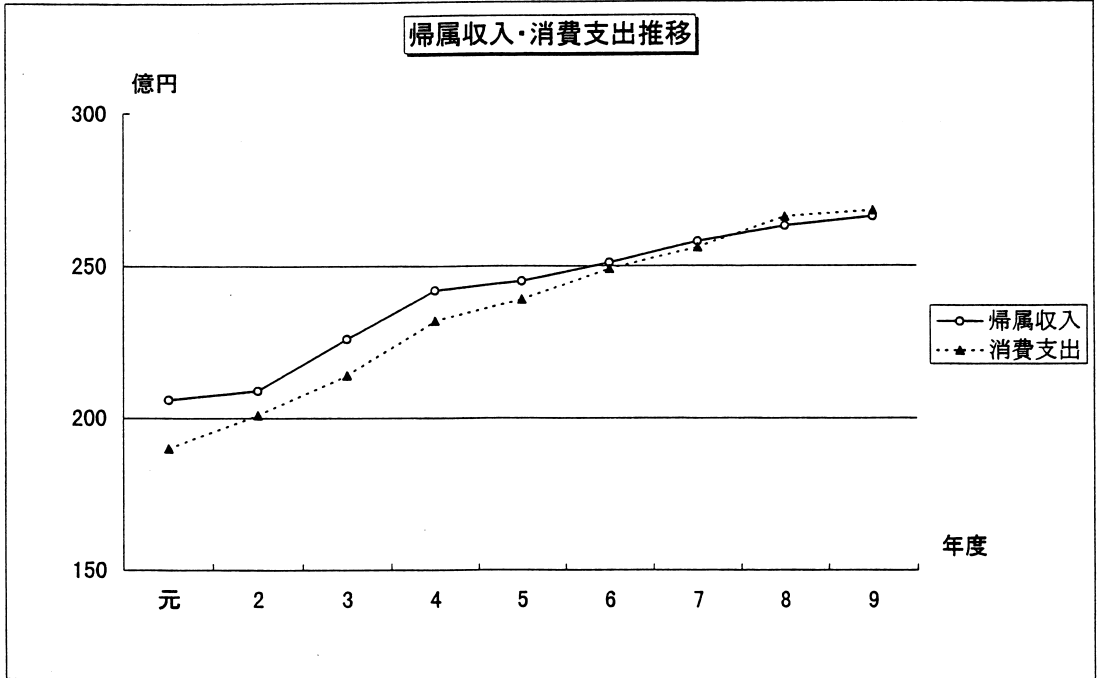


- ① 帰属収入 資産の増加を伴う収入
- ② 消費収入 帰属収入から基本金組入額を控除した後の収入
- ③ 消費支出 資産の減少を伴う支出
- ④ 基本金組入額 学校法人が研究診療活動に必要な資産を継続的に保持するための引当分

① ② ③ ④ の平成9年度の数値については別表3参照



別表 2



別表 3

## 消費収支計算書

(平成9年4月1日から平成10年3月31日まで)

単位：千円

収入の部				支出の部			
科目	9年度決算額	9年度予算額	増減	科目	9年度決算額	9年度予算額	増減
学生生徒等納付金	2,233,502	2,234,140	△ 638	人件費	12,356,063	12,521,552	△ 165,489
手数料	70,431	68,292	2,139	教育研究経費	12,833,755	13,229,798	△ 396,043
寄付金	488,491	490,600	△ 2,109	管理経費	1,432,124	1,188,396	243,728
補助金	2,357,178	2,404,782	△ 47,604	借入金等利息	128,362	127,904	458
資産運用収入	282,823	284,370	△ 1,547	資産処分差額	57,124	76,348	△ 19,224
事業収入	352,212	413,000	△ 60,788	徴収不能額	5,659	8,000	△ 2,341
医療収入	20,473,706	20,958,889	△ 485,183	予備費	0	300,000	△ 300,000
雑収入	353,336	355,130	△ 1,794				
帰属収入合計	㉑ 26,611,679	27,209,203	△ 597,524	消費支出の部合計	㉒ 26,813,087	27,451,998	△ 638,911
基本金組入額合計	㉓ △ 1,323,527	△ 548,777	△ 774,750				
消費収入の部合計	㉔ 25,288,152	26,660,426	△ 1,372,274	当年度消費支出超過額	△ 1,524,935	△ 791,572	

## 平成10年度 永年勤続表彰

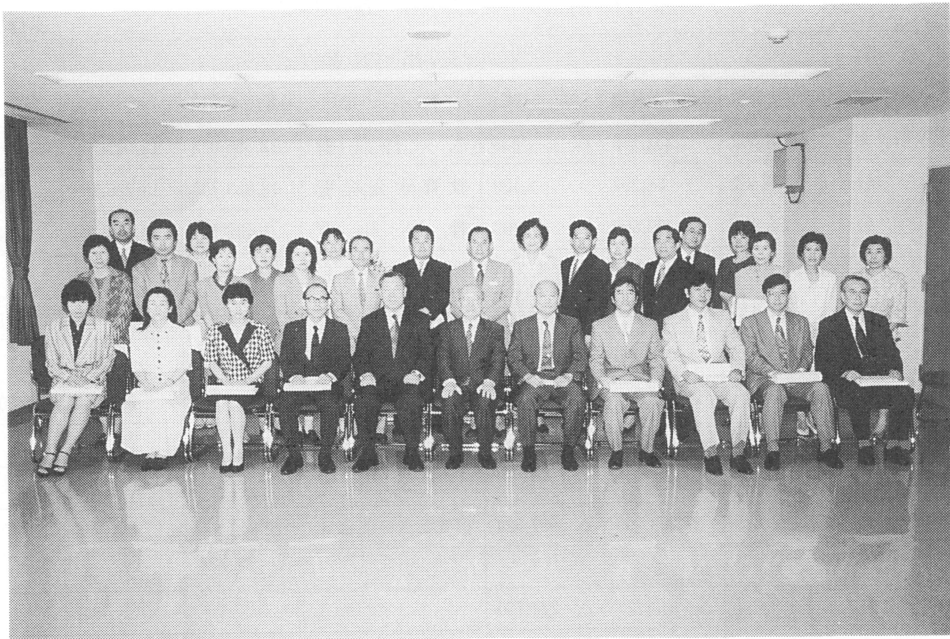
平成10年度の永年勤続表彰式が、6月2日（火）午前10時（20年勤続者）と午前11時（35年以上勤続者）の2回に分けて、総合研究棟12階第2会議室において執り行われました。表彰式には、勤続20年（24名）、同35年以上（18名）の教職員をはじめ、吉田理事、藤本学長、佐々木病院長等関係者が出席し、一人一人に表彰状と記念品が手渡されました。

本年度の表彰者は次のとおりです。

### 〔20年勤続教職員〕

池田喜久子（看護部・看護事務員）	鈴江 和枝（看護部・看護婦）
岩切 葉二（看護部・准看護婦）	尻江 達雄（施設課・主任）
上田 倫子（薬剤部・課長補佐）	巽 唯子（看護部・看護婦）
小関 房子（庶務課・電話交換手）	外山 幸子（看護部・准看護婦）
片山 憲二（庶務課・主任）	西橋 正芳（薬剤部・課長補佐）
河村慧四郎（第3内科学・教授）	橋本 輝子（看護部・看護補助員）
絹見 紀一（看護専門学校・事務長代理）	浜田 昌子（看護部・看護補助員）
木村 正士（医療情報部・主任）	村上 操（看護部・保育室主任）
木山 治（薬剤部・課長補佐）	森山 幸子（看護専門学校・専任教員）
日下部 正（中央検査部・技術主任）	山下 京子（看護部・看護婦主任）
四方 早子（看護部・看護婦主任）	結城 照子（中央検査部・事務員）
嶋田 隆行（看護部・看護師）	米沢イクエ（栄養給食課・用務員）

（50音順）



永年勤続表彰者（20年）

### [35年以上勤続教職員]

勢川瑠美子（看護部・事務局次長看護部長）  
飴谷 昭治（リハビリテーション科・技師長）  
伊藤 博（薬剤部・部長）  
平野 勝（病院事務部・部長）  
水橋 豊子（看護部・看護婦主任）  
斉藤千鶴子（看護部・課長）  
松井 清司（法医学・技師長）  
川浪 廣子（栄養給食課・課長）  
福田 市藏（第1内科・診療教授）

宝田 照代（看護部・看護婦主任）  
杉信 義人（放射線科・技師長代理）  
青山早智子（医事第一課・主任）  
松本 京子（看護部・婦長）  
栗本 宗治（中央手術部・助教授）  
佐々木 聖（小児科学・講師）  
崎山 三代（看護部・婦長）  
陰山 克（第2内科・診療教授）  
岩本 暢泰（医療情報部・課長）



永年勤続表彰者（35年以上）



## 永年勤続表彰を受けて

### —大阪医科大学という大河の 流れに添って—

事務局次長・看護部長

勢川 瑠美子

平成9年の創立70周年を機に、これまでの永年(20年)勤続表彰に新たに(35年)表彰が実施されました。初回は35年以上の方々を対象にいただき、私は勤続46年表彰の荣誉に浴し、感謝の気持を抱くと共に、46年間をふり返るよい機会になりました。

昭和25年戦後の復興期、日常の必需品も配給されていた物不足の時代に、新制度一期生として入学致しました。実習中に兎の餌をとり京大農場に行き、れんげ草を摘んだり、夏には蛍がりをするなど、優雅な時代でした。卒業時の昭和27年の病院のベッド数は約300床で、のどかな田園風景の中がありました。その後今日に至るまで1号館～6号館と増築が続き、家庭的な暖かい雰囲気の中で、仕事をさせていただきました。しかし決して波風なく過ごしてきたのではなく、人並み以上のきびしい試練にも遭遇しましたがその時々秀れた先輩や、他職種の方々を手を携えて乗り越えてきたように思います。

一方、私事の46年をふり返りますと学生時代の講師には今は亡き牧内正三先生、山中太木先生、安井廣明先生や看護関係では三好トラキ総婦長、有馬英子先生(現川上英子氏)等多くの立派な講師陣に恵まれていました。放課後には亡き満田久敏先生、盛彌壽男先生、大川治先生、田中実先生、吉川仙作先生や御健在の平井博先生、中坪本治先生、太田元治先生達とテニスを楽しむ時間があつたこと、大先生方と楽しく過ごさせていただいた青春の日々であり、かけがえのない日々でした。これまでの歳月を思い感無量のものがあります。今日の医療状況は大学にとっても色々な意味からきびしいものがありますが、本学の伝統的な良さであり、大切にしてきた多くの職種が協力しあうチームプレーと患者さんに優しく親切を基盤にした看護に理論的裏づけを加えた質の高い看護を実践して行く努力をすることを肝に命じ、これからの日々を有意義に過ごして行きたいと考えております。

### —的確な診療支援を目指して—

中央検査部主任

日下部 正

大阪医科大学に再就職をしてはや20年、この度永年勤続表彰を受けることが出来ました。終身雇用が崩れだした現代社会において、長年一つの職場に勤めるということは、それほど褒められることではなくなって来ましたが、自分自身の人生を振り返ったときには感慨深いものがあります。ここまで来れたのも諸先輩や同僚の方々の励ましや、家族の協力によるものと感謝しております。

私が中央検査部の一員となった当初は、病理検査室に配属になり、細胞検査士の資格取得や、勉強を通じて多くの人達と交流ができました。その後、細菌検査室へ移り、他のスタッフと共に技術の研鑽を目指して今日までやって参りました。近年、産業社会は大きな波にさらされ、その中で医療構造も変革が進んでいます。臨床検査も例外ではなく、中央検査部でも、中央採血や24時間検査(宿直)体制などを導入して来ましたが、これから益々医療のニーズに対応した検査体制が求められるものと思われれます。今後は検査の有効性を高めるために、付加価値をつけた検査体制や、限られた財源の中での効率的な検査を確立していく必要があり、そうすることによって初めての的確な診療支援が可能だと思えます。

私は、この度の表彰を機に、これらの課題が克服出来るよう一層前向きに業務に取り組んで行こうと思えます。



## 教 室 紹 介

### 第三内科学教室

#### — Evidence Based Medicine の展開と Quality of Life の 向上をめざして —

本教室の創設は昭和38年で、初代の鷹津 正教授（京大卒）は良き臨床医の養成をめざした循環器内科志向の教室の育成に多大の貢献をされ、昭和56年定年退職された。以後、教室の伝統は河村慧四郎教授（京大卒）に引き継がれ、教育、診療、研究のさらなる発展、また関連病院との提携の増進への努力が続けられ、今年で教室は計35年の歴史を刻む。

現在、教室のスタッフは教授以下、北浦泰助教授、弘田雄三助教授、田中孝生講師、出口寛文講師、諏訪道博講師（外来医長）、林哲也学内講師（病棟医長）、助手8名、専攻医16名（関連病院出向者を除く）、大学院1名、臨床研修医7名であり海外留学中5名を数える。卒後教育の指導理念は①教室研修のあかしとして、認定内科医（専門医）と循環器専門医の認定を得て生涯学習の実践をめざす、② evidence based medicine の情報に通暁し、informed consent を得た最良の診療を行い患者のQOLの向上を計る、③研究成果は学会のほか国際的学術誌に発表し真価を問うことである。

教室の最近の診療実績をみると年間外来患者延数は約50,000名、新患紹介率は66%、入院患者総数は約800名、入院患者1人宛平均在院日数は約20日余りである。患者入院の約80%が循環器疾患でその半数以上は冠動脈疾患であり、他に弁膜症、不整脈、心筋症、心筋炎、高血圧症、大動脈瘤、肺塞栓症などがある。最近、心疾患診断カテーテル検査は年間約550例、PTCA、PTMC、カテアブレーションなどのインターベンション療法は約260例に行われる。予後不良の心筋症患者には $\beta$ 遮断薬療法、成長ホルモン療法、パチスタ手術などの最新療法の試み、また心臓移植の適応の検討も行われる。

教室には心カテ班、心エコー・核医学班、不整脈班、高血圧・腎臓班、またウイルス感染、心筋代謝、心臓病理などの各研究班があり研究テーマに応じて各班は互いに機動的に共同体制を組む。まさに“United we stand.”がモットーである。教室の研究活動は心筋症の成因論に関連する実験的ウイルス性心筋炎、心筋内ウイルス持続感染の疫学、心筋炎の免疫機構、アポトーシス、心筋のCD36/FAT欠損と長鎖脂肪酸代謝障害、心肥大と退縮、心筋症各型と動物モデルにおける心筋微細構築と細胞化学などの検討がある。臨床的研究には肥大型、拡張型、拘束型の各心筋症の心力学、心室筋切除術の適応と長期予後、心エコー法による左心房機能と心室拡張障害の評価、心不全の $\beta$ 遮断薬療法の有効性の予測、閉塞性肥大型心筋症の心房・心室順次ペーシング療法の適応と長期予後の検討などがある。因みに本教室は、昭和49年以来現在まで、厚生省特定疾患特発性心筋症調査研究班に連続参加活動している。他方、現在最も多い心臓病である虚血性心疾患の新しい診断法として、多誘導長時間心電図記録解析装置（EAGLE）の開発や心筋梗塞の超急性期診断法として心筋由来脂肪酸結合蛋白の血中・尿中検査法の開発なども行われ、弁膜症患者の自然歴の解析と至適手術時期の検討などの研究も進展している。（文責：河村）



# 平成10年度 医学会春季学術講演会

平成10年度春季学術講演会が、下記のとおり開催されました。

日時 平成10年6月3日(水) 午後2時30分～5時

場所 臨床第1講堂

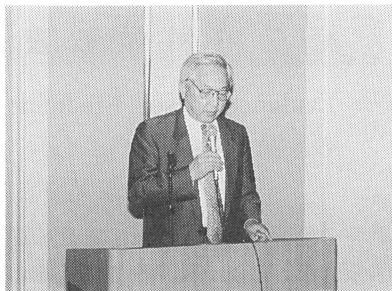
## 〔特別講演〕

### 『レトロウイルス感染症：ATLとAIDS』

財団法人 田附興風会北野病院院長

熊本大学名誉教授

高 月 清



## 主要会議とその主な議題

5月1日から7月15日までの主要な会議とその主な議題は次のとおりです。

### 〔理事会〕

(5月12日)

－審議事項－

1. 学校法人大阪医科大学給与規則の一部改正について

2. 寄附金及び学債の発行について

(5月30日)

－審議事項－

1. 平成9年度決算承認について

2. 学債の募集について

－報告事項－

1. 庶務報告

2. その他

学長報告

病院長報告

看護専門学校長報告

(6月9日)

－審議事項－

1. 寄附金及び学債の募集について

(7月14日)

－審議事項－

1. 寄附金及び学債の募集について

### 〔評議員会〕

(5月30日)

－審議事項－

1. 理事の選任について

2. 学債の募集について

－報告事項－

1. 平成9年度決算報告について

2. 寄附金及び学債の募集について

3. 中央資料館解体工事中止について

4. 庶務報告

5. その他

学長報告

病院長報告

看護専門学校長報告

### 〔教授会〕

(5月6日)

1. 人事に関する件(学内講師の任用他)

2. 入試に関する委員会委員の追加指名に関する件

3. その他

1) 治験審査委員会委員の委嘱について

2) 組換えDNA実験に関する安全委員会委員長及び副委員長の委嘱について

3) バイオハザード実験室管理運営委員会委員長の委嘱について

4) 既修得単位の認定について

(5月20日)

1. 人事に関する件(非常勤講師の任用)

2. 入試に関する委員会委員長及び副委員長の委嘱に関する件

3. 平成10年度奨学生の推薦に関する件

(6月10日)

1. 入試制度審議会からの答申(案)に関する件

2. 教員人事に関する検討委員会からの非常勤講師の実態と改訂まとめに関する件

(6月24日)

1. 人事に関する件(助教授の任用他)
2. 平成11年度入学試験に関する件
3. 入試に関する委員会規程中の一部改正に関する件
4. 受託研究取扱規程中の一部改正に関する件
5. その他
  - 1) 保健管理室長の委嘱について
  - 2) 主任健康管理医の交代について
  - 3) 健康管理医の委嘱について
  - 4) 自己点検・評価組織委員会委員の追加について
  - 5) 自己点検・評価組織委員会小委員会(附属病院部会)委員の追加について
  - 6) 本年度後期(卒業)試験のあり方について
  - 7) プレテストの実施について
  - 8) 診療助教授と助教授の関係について

(7月8日)

1. 人事に関する件(助教授の任用他)
2. 平成11年度入学試験に関する件

#### 【大学院医学研究科委員会】

(5月6日)

1. 研究生の願出に関する件
2. 第3学年学生の退学願出に関する件

(5月20日)

1. 平成10年度ティーチングアシスタントの任用に関する件
2. 平成10年度日本育英会奨学生の推薦に関する件

(6月10日)

1. 学位論文受理に関する件
2. その他
  - 1) 平成10年度ティーチングアシスタントの任用について
  - 2) 研究生の願出について

(6月24日)

1. 平成10年度私立大学等経常費補助金特別補助(高度化の推進)に係る計画調書の提出に関する件
2. 学位論文提出のための語学試験の結果に関する件

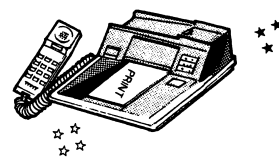
(7月8日)

1. 第1学年学生の学外研修願出に関する件
2. 研究生の願出に関する件

## 主な行事日程表

7月16日から10月31日までの学内における主な行事予定は次のとおりです。

- 7月17日(金) 看護専門学校授業終了  
18日(土) 第6学年夏期休業(看護専門学校8月31日まで)  
20日(月) 平成10年度第50回西日本医科学生総合体育大会(8月10日まで)  
22日(水) 教授会・大学院医学研究科委員会  
27日(月) 学位記授与式  
28日(火) 理事研究会  
8月24日(月) 第6学年臨床実習再開  
25日(火) 理事会  
31日(月) 第4・5学年第2学期授業開始  
9月1日(火) 看護専門学校授業開始  
2日(水) 教授会・大学院医学研究科委員会  
7日(月) 第3学年第2学期授業開始・第1・2学年前期授業再開  
8日(火) 理事会  
14日(月) 学位論文受付締切  
16日(水) 教授会・大学院医学研究科委員会  
22日(火) 理事研究会  
10月7日(水) 教授会・大学院医学研究科委員会  
9日(金) 大学祭(11日(日)まで)  
12日(月) 看護専門学校戴帽式  
13日(火) 理事会  
17日(土) 解剖慰霊祭  
19日(月) 第6学年後期試験(平成10年12月4日(金)まで)  
21日(水) 教授会・大学院医学研究科委員会  
27日(火) 理事研究会



## 第16回教務事務研修会に参加して

第16回教務事務研修会が6月18日（木）から20日（土）にかけて、千葉県幕張プリンスホテルで行われました。

### （実行委員として研修会に参加して）

教務課長 西田 伸 忠

A-2グループは、教務事務の経験年数の浅い方（15大学15名）を対象に「卒前教育と教務事務に関する各テーマについて討議を行った。

#### テーマ

履修科目・講義出席の管理・Early Exposureの実状・定期試験・クリニカルクラークシップの実施状況・留年に関する問題・事務の合理化（コンピューターシステム）・臨床実習授業時間数（実績）集計における他大学の実情・国試対策・形成的評価実施状況・各種証明書作成時の注意点・教員の兼任

初日、全員の自己紹介の後、全員が何らかの役割を担当して頂くことで、司会、書記、発表者（中間報告、総括報告）、報告書作成者、感想文作成者を指名して討議に入った。

討議は、司会の進行により、提案校から主旨説明の後、各校からの実情報告、質疑応答を行った。最初は、全員が緊張気味であったが、その緊張も直にとれて活発な討議となり、時間超過となることを心配するほどであった。

なによりも、自校での懸案事項、ないし自分が抱えている問題について、他校の状況を直接に聞けた事は、今後の業務処理に向けてのヒントになったことと思う。

この2日間での討議を通して得た知識、面識を大事にして今後の業務、情報交換に役立てていただけるものと期待する。

### （研修会に参加して）

教務課 寺田 理 恵

梅雨の谷間の好天の下研修会に参加しました。

初日、ホテルに到着後すぐ日本私立学校共済振興事業団 根岸直氏の講演（『私立大学経常費補助金について』）がありました。難しい話

を非常にわかり易く説明され、趣旨は「経常費補助金は、一般補助から特別補助の時代となり、特に特色ある教育・研究の推進が補助金額の重要なポイントとなる」とのことでした。

講演が終るといよいよ1グループ10～15名に分かれてのグループ別討議。事前に課題テーマ、参加者名簿等送付されており、1つ心配していた事があったのですが……その心配が的中！私が所属するグループの方は20代半ばから50代半ばで、年令的には下の方だったのですが、学生・教務課の経験年数は私が一番長く実行委員の方から司会を抑せ付かることになりました。今まで、『司会』など殆ど経験がなく今回の研修会で一番勉強になった事は、人前で話し、まとめ、討議を進めていく事の難しさです。

実行委員、グループの方々に助けて頂き、何とかグループ討議を終える事ができました。2泊3日と緊張の連続でしたが、とても良い経験をさせて頂いたことに感謝致します。

教務課 有 友 彰 一

研修会というものに初めて参加しました。主な研修内容は①講演、②グループ討議、③懇親会でした。第1日目のグループ討議ではやや消極的でしたが、時間がたつに従って、また、自分達が設定したテーマが討論されるに従って活発さが増してきました。グループ討議で聞けなかったこと（言えなかったこと）は、食事の合間や懇親会の時などチャンスはたくさんありました。いろいろ聞いてみると、どこの大学でも実状は違うが、抱えている問題は共通したところがあり、共感を覚えるところが多々ありました。全く初対面の人とたった3日間という短期間で寝食を共にしながらあれだけ話ぐできたことは今から思うと大きな収穫であったように思います。この紙面をお借りして、研修会に参加させていただいたことに深く感謝致します。



## 医学の散歩道

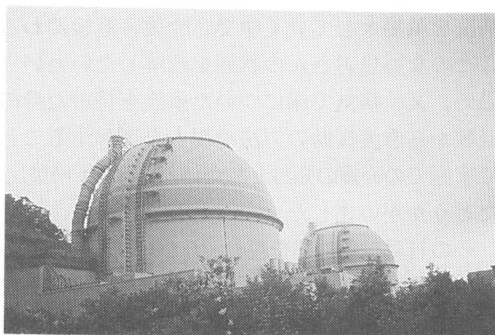
### 大飯原子力発電所を見学して

機器共同利用センター学内講師

高淵雅廣

生命科学SGLの行事として福井県大飯町にある関西電力大飯原子力発電所の見学を行った。学生には、今後のエネルギー問題を考える上で避けて通ることのできない原子力発電の現状を認識してもらう目的で、私個人としては、原子力・放射線に対する強い逆風の吹く中で、電力会社が社会に対しどういう風にPA (Public Acceptance) 活動をしているのか興味があり、企画した。

関電が手配してくれたバスに乗り込み3時間ほどで現地のPR館「おおいり館」に到着。早速、地元の紹介(ビデオ)と発電施設の概要の説明を受ける。大飯発電所は4基の原子炉を有する。1基当たりの発電量は約180万kWで、



大飯発電所の原子炉格納容器  
手前が4号基、後が3号基

4基あわせると関電の総発電量の1/4を占めるという巨大な出力を誇っている。「おおいり館」には実物の1/3大の原子炉の模型がありその前で原子炉についての説明があった。その内容は、一次冷却水、二次冷却水、それとタービンをま

わした後の蒸気を冷却するための海水、など水の働きに焦点を当てたものである。核分裂や原子炉の制御については簡単に触れるだけで、放射能や放射線についての言及はほとんどなかった。この辺りが一般の人にむけてのPR活動の限界と判断したのか電力会社の苦心がうかがえる。

引き続きバスに乗り込み、発電施設の見学に向かう。途中、何度も検問ゲートをくぐる。厳重に監視されている印象を受け、何となく緊張する。この感じは建屋内に入っても続く。一般見学ルートは4号基に設けられていて、発電用タービン、核燃料貯蔵設備、原子炉制御室を見ることができる。使用済み核燃料は、水中に納められ放射線を遮蔽しているが、さらに見学の窓には、安全のため1m以上の厚さの鉛ガラスが使われている。その他見学路には、核燃料集合体やウランペレットの模型、原子炉格納容器に使われている鉄筋のワイヤーなどが展示されていて、巨大プラントの一端をかいま見ることができる。

今回の見学会で世話になった友人の話だと、原子力に対するPAは不可能に近いという。見学のように遠くから原発を見ると感心するだけであるが、身近に関わってくるとまず受け入れられない。このような現象はなにも原子力に限ったことではない。私が直接関わっている「放射線」も社会が敬遠するものの一つである。どうすれば「放射線」が社会とうまく共存できるか。広島・長崎の被爆を原点とした「平和教育」が行われている日本では、放射能＝死の灰＝悪のイメージが義務教育の段階で定着し、多くの人がある後の高等教育で新たに「放射線」についての知識を獲得することなく成人になる。これでは「放射線」に対するきちんとした態度が育つはずがない。このような状態は医療にとっても人ごとではない。このようなことを帰りのバスの中でうつらうつらしながら考えた。

# 附 属 病 院

## 院内消防防火設備説明会

今年度の消防訓練計画にもとづき、防災訓練の一貫として、附属病院に設置されている消防防災設備全般にわたる説明会が下記のとおり実施されました。

- ・スライド映写と設備資料に依る説明（40分）
- ・病棟での現地設備機器説明（20分）

日 時	対象職場	開催場所	現地説明
6月6日(土) 10:00~ 11:00	手術室・ ICU	手術室 カンファレンス ルーム	手術室
6月10日(水) 13:30~ 14:30	1号館、 事務部 5号館、 サブライ	管理棟会議室 (管理棟3階)	13病棟 54病棟
6月17日(水) 13:30~ 14:30	6号館 他の部署	管理棟会議室 (管理棟3階)	62病棟 66病棟
6月23日(火) 13:30~ 14:30	2号館 3号館 外来棟	管理棟会議室 (管理棟3階)	24病棟 34病棟 外来ホール

## 平成10年度附属病院臨床研修医

(99名……学内76名、学外23名)

平成10年5月1日現在の各科の臨床研修医数は以下のとおりです。尚、昨年度は79名。

第 1 内 科	18	：	眼	科	11
第 2 内 科	4	：	耳 鼻 咽 喉	科	4
第 3 内 科	5	：	皮 膚	科	3
精神神経科	5	：	泌 尿 器	科	3
一般・消化器外科	6	：	放 射 線	科	2
胸 部 外 科	0	：	麻 酔	科	2
脳 神 経 外 科	8	：	歯 科 口 腔 外 科	科	11
整 形 外 科	9	：	中 央 検 査 部		0
小 児 科	6	：	形 成 外 科	科	1
産 婦 人 科	1				

## 看護の日

### 「ふれあい看護体験'98」

#### ふれあい看護体験を受け入れて

55病棟看護婦

津 田 千 秋

55病棟では、2名のふれあい看護体験を受けさせて頂きました。今回は、看護職を目指し実際に現場で患者さんと関わることによって、目標を明らかにしようとする参加される高校生や社会人として目的をもち職についておられる方が、看護婦の視点や、患者さんとの関わり方等を一日体験を通して知り、接遇や専門職業人としての立場を理解したいと、参加されました。

今回、私は某製薬会社に今春入社された20代の女性を担当し、日常の看護援助の経験から目的を達していただくことと関わらせて頂きました。その方の参加の目的は、これからMRとして、病院を職場としていく中で、今後、直接関わることのない患者さんの状態を理解したいという思い、又、病気で床についた家族を持った時の経験から看護援助の方法や視点を理解することで家庭での介護の知識としたいという思いがあったとうかがいました。

その日は、急性期を脱し、リハビリ期へ向かっている患者さんと接して頂き、全身清拭・更衣の介助・バイタルサインの測定・排泄介助・歩行練習等の体験をして頂きました。

看護技術の説明や、私自身がどの様な考えを持って、その日の患者さんと接していこうと思っているか等話しながら関わりましたが、その方は、感性豊かで、初めて逢う患者さんの少しの情報からも、家族の背景や退院後の生活、患者の将来までも気にかけておられることに驚きました。

私達看護婦にも職業意識がある様に、その方にも職業人としての意識があり、職場や職種は異なりますが、それぞれに現在の職業に対する

プライドがあり、その為にこのような体験を希望される姿勢は素晴らしいと思いました。

午後からは、看護専門学校主催のナイチンゲール生誕祭に参加されました。学生が、病棟の患者さんを訪問する様子を見学され、なごやかな雰囲気の中、患者さんと笑顔で接しておられナイチンゲール生誕祭の目的も理解して頂けた様に思います。

私自身、関わりのないもの、興味のないものには近づけない性格にあり、チャンスを物に出来ないことが多くありましたが、こうしてふれあい看護体験を担当させて頂いた事で学ぶことも多く、いい機会を与えて頂いたと感謝しています。

### ふれあい看護体験に参加して

松崎 舞

5月12日は「看護の日」ということで、私は5月13日大阪医科大学附属病院でふれあい看護体験に参加してきました。薬学部の学生として4年間大学で学んだ医療に関することも、学術的な知識だけで、実際に医療現場に立つことで身につくことは何一つ知らない状態でした。武田薬品工業に入社し、医療の一端を担うMRとして研修を受けている私にとって、今回の体験は大変勉強になったと思います。私は脳神経外科でふれあい看護体験を行ないました。病棟は脳の手術をした患者さん、重度の痴呆をもった患者さんなど、意識はあっても反応のない状態の患者さんが多く、また、通常当然に行なうことのできる行動、例えば入浴やトイレなどが、自由に自分の意志によりできない患者さんが殆どでした。体拭きや体位交換など時間を区切ってすばやくこなしていく看護婦さんに驚き、また尊敬しました。この病棟では、患者さんの身体のケアだけでなく精神的なケアも他に比べて要求されると思いました。また患者さんの家族に対する配慮も大切であることを学びました。患者さんの喜ぶ顔を見ることも他の病棟に比較し、反応のない患者さんの看護をするのは大変難しく、また精神的にも強くならなければこな

すことができないのではないかと思います。

また大学の附属病院ということもあり、看護学生により開かれたナイチンゲールの生誕祭にも参加させて頂きました。私と同じように医療の一端を担う中心的な存在となる看護学生さんの抱負を聴き大変共感しました。

私は10月からMRとして配属されます。今回の看護体験で学んだことは「すべての中心は患者さん」という精神です。私達が行なう情報活動の先には必ず患者さんがいるということを常に考えていくことが大切だと思います。また常に直接患者さんとは関われなくても、医療関係者を通じて、患者さんの治療に貢献しているという意識をもち、行動していこうと決心いたしました。

今回は貴重な体験をさせていただきありがとうございました。大変勉強になりました。

### 生前献体者文部大臣感謝状伝達式 ご遺骨返納式典



生前献体者に対する文部大臣からの感謝状伝達式が、7月3日（金）午後1時から第2会議室において挙行されました。

また、これに引き続き、ご遺骨返納式典が午後2時から光松寺（本学菩提寺）において、ご遺族の方々をお迎えし、本学から学長、学生部長、解剖学教室関係者及び学部学生の参列のもとに執り行われました。

## 保健管理室からのお知らせ

平成10年度研修医健康診断を平成10年5月7日（木）実施しました。本年度の各教室研修医は合計99名（学内76名、学外23名）で受検率は下記の通りです。

**表1 平成10年度研修医健診受検者数（率）**

		対象者数	尿検査	血液検査	胸部X線	心電図	受検率
第一内科	M	12	9	9	7	8	75%
	F	6	4	5	4	5	83%
	計	18	13	14	11	13	78%
第二内科	M	4	4	4	3	4	100%
	F	0	0	0	0	0	0%
	計	4	4	4	3	4	100%
第三内科	M	4	4	4	4	4	100%
	F	1	1	1	1	1	100%
	計	5	5	5	5	5	100%
一般外科	M	5	5	5	5	5	100%
	F	1	1	1	1	1	100%
	計	6	6	6	6	6	100%
脳神経外科	M	6	5	6	4	5	100%
	F	2	2	2	2	2	100%
	計	8	7	8	6	7	100%
形成外科	M	1	1	1	1	1	100%
	F	0	0	0	0	0	0%
	計	1	1	1	1	1	100%
整形外科	M	9	9	9	9	9	100%
	F	0	0	0	0	0	0%
	計	9	9	9	9	9	100%
口腔外科	M	9	9	9	9	9	100%
	F	2	2	2	2	2	100%
	計	11	11	11	11	11	100%
精神科	M	4	4	4	4	4	100%
	F	1	1	1	1	1	100%
	計	5	5	5	5	5	100%
小児科	M	5	5	5	5	5	100%
	F	1	0	1	1	1	100%
	計	6	5	6	6	6	100%
眼科	M	4	4	4	4	4	100%
	F	7	7	7	7	7	100%
	計	11	11	11	11	11	100%
耳鼻科	M	3	3	3	3	3	100%
	F	1	1	1	1	1	100%
	計	4	4	4	4	4	100%
皮膚科	M	2	1	2	2	2	100%
	F	1	1	1	1	1	100%
	計	3	2	3	3	3	100%
泌尿器科	M	3	2	3	3	3	100%
	F	0	0	0	0	0	0%
	計	3	2	3	3	3	100%
放射線科	M	2	2	2	2	2	100%
	F	0	0	0	0	0	100%
	計	2	2	2	2	2	100%
産婦人科	M	0	0	0	0	0	0%
	F	1	0	0	0	0	0%
	計	1	0	0	0	0	0%
麻酔科	M	1	1	1	1	1	100%
	F	1	1	1	1	1	100%
	計	2	2	2	2	2	100%
計	M	74	68	71	66	69	96%
	F	25	21	23	22	23	92%
	計	99	89	94	88	92	95%

受検率は第一内科、産婦人科が低かったものの全体では95%でした。新入局の年しか健康診断はありませんので本人は勿論各教室の御配慮もよろしく申し上げます。有所見で特に目立ったのが“高血糖”でした。採血の時間帯が不適當なので、次年度より“空腹時採血”を目指し各部署と相談、検討してゆきたいと思っております。最後にいつもご協力を頂いている関係部署の方々にお礼を申し上げます。

#### フィルムバッジ登録・抹消は早めに

フィルムバッジは毎月末に教室（部署）を通して登録者に配布しています。

各自事情はあると思いますが、院外出向や海外留学する場合、業務の都合で6ヶ月間使用しない場合等は機器共同利用センター R I 実験室（内3416）または保健管理室（内2291）へご連絡をお願いします。ちなみにフィルムバッジ価格は1個370円で、1年間4440円／1人のバッジ代が計上されています。

#### 深夜業務・特定業務従事者健康診断終了

深夜業務・特定業務従事者健康診断を終了しました。今回ご迷惑をお掛けしましたが法規による対象者を見直し、無駄を省く為に今年度より深夜業務をしていない者を除く教職員としました。対象者については法規に沿って、検討しております。

再検通知をもらった方で締切り日に間に合わなかった方、まだの方は保健管理室までお越し下さい。

#### 新採用の教員の方へ

庶務課で手続きを終えたら2週間以内に健康診断を受けて下さい。

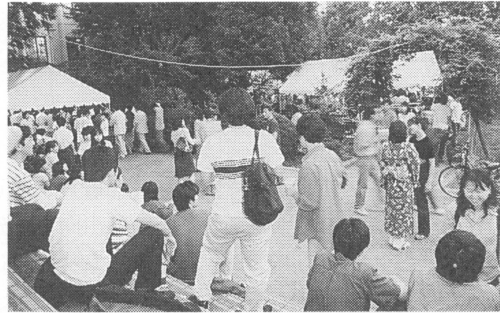
- ・ 検査項目 血圧、検尿、視力、採血、胸部レ線、ECG、他
- ・ 場 所 保健管理室（研究棟1F 北側 内線2291）
- ・ 時 間 午後2時～3時（なるべく空腹時にお越し下さい）
- ・ 結果報告 1週間後に個人通知いたします。

### 掲 示 板

高温多湿による事故が近畿でも多発しています。屋内屋外を問わず熱中症の発生しやすい状況になりますのでご注意ください。

## 新入生歓迎会「炎祭」開催される

学友会主催の新入生歓迎会「炎祭」が、6月6日（土）開催され、さわらぎキャンパスにおいてソフトボール大会、バレーボール大会、クラブ対抗リレーなどのイベントが行われました。また、夜には各クラブの模擬店が本部キャンパス学生文化部室前に出店し、多くの学生が集いました。



## ナイチンゲール祭

近代看護の祖ナイチンゲール（1820.5.12～1910.8.13）の生誕を祝うナイチンゲール祭が、5月13日（水）午後1時30分から臨床第1講堂において、東看護専門学校長、勢川看護部長をはじめ、教職員・看護学生ら250名の出席により執り行われました。



## 高槻署から感謝状

附属病院内不法侵入者の現行犯逮捕に協力した看護婦枇榔幸代さん、坂井志穂海さん、警備員の黒木利徳さんの3人に対し、7月7日（火）高槻署から感謝状が贈られました。



### お詫びと訂正

前回発行の36号に一部誤りがありましたので、お詫びし訂正致します。

P15（就業規則の一部改正について）

別表20中、通常・全日勤務の勤務時間  
終業16時10分 → 終業16時20分

P16（人事）〔採用〕

助手

白壁 理志（産婦人科学）→

白壁 理志（形成外科学）

大阪医科大学俳句会(四／五／六月)

土地柄は判官鼻肩花の山

塚本 務人

蝉丸忌琵琶の音で遇ふ姉弟

同

水郷やくひなの首の赤と知る

今井 雄介

燕が大きいさすが明の十三陵

同

紅の花輪郭のない夢ばかり

古川 洋子

蟹穴に入りて始業のベルの鳴る

中川 一成

山小屋の銀蠅星になるつもり

奥田 筆子

梅雨晴間人語ふくらむ工務店

吉田 孝江

リラの花無垢のままなるパスポート

飯塚 久子

キヤラメルでゐもり釣らしむ生理学

山崎 隆司

投句のお誘い

一般の方も投句（何句でも）して下されば、当句会で会員の出句と同じように選句します。入選句は当欄に掲載します。

宛先は

〒569-0084 高槻市沢良木町2 - 41

大阪医科大学さわらぎキャンパス

俳句会



夏の朝、君は木陰で御主人様の診察が終わるのを、じっと静かに待っている。  
子供が近づいて来ても、そのやさしいまなざしで、そっと温かく包みこむだけ。  
ゆったりとした時間の中で、君のまわりを蝶が飛び、空には雲が流れていく。  
怒りもなければ苦しみもない時間が、君のまわりに満ち溢れている。  
静かに待つだけの世界、そんな空間が、美しい。

大阪医科大学学報 第37号

発行年月	平成10年7月
発行	学校法人 大阪医科大学
発行責任者	事務局長 多田 数義
編集・発行	総務部 庶務課